

「シャインマスカット」の無核栽培マニュアル

愛知県農業総合試験場園芸研究部落葉果樹研究室

I 植栽～幼木期の留意点

「シャインマスカット」の無核栽培では、本来12g程度の果粒になるが、樹勢が強く、特に幼木期は新梢伸長が旺盛で、果粒が6～10g程度にしかない。このため、植え付け後短期間で樹冠を拡大し、樹勢を落ち着かせる。

1. 主枝や垂主枝など、骨格となるような枝の先端は、生育旺盛で充実した1年枝を長さ2～3m、芽数にして15～20芽残し、樹冠の拡大を図る。このように長く残した枝は、発芽促進剤処理と芽傷処理を併用し、発芽率の向上と発芽後の生育促進を図り、生育が良く、生育揃いの良い多くの新梢を確保するように努める。
2. 主枝や垂主枝の先端で、冬のせん定時に樹冠拡大のために利用する予定の枝は、8月以降に先端を摘心し、副梢が発生したら1～2枚の葉を残して摘心し、養分の浪費を防いで枝の充実を促す。

II 栽培管理方法

整枝、せん定

1. やや強めの新梢に着房させた方が果粒肥大が良好なので、短梢～中梢せん定が適する。樹勢が強く新梢の生育が旺盛なため、強い一年枝は8節程度、中庸な新梢は4～6節で切り返して結果母枝とする。
2. 整枝は「巨峰」と同様に一文字またはX字の自然型整枝でよいが、作業の効率化、平易化のためには平行整枝が有利である。(参照 <http://www.pref.aichi.jp/nososi/syokukai/engei/06.pdf>)

花穂の整形(花切り)

1. 縦長で円筒形の果房を生産するには花穂の先端部を利用する。
2. 1花穂中の開花期間が長引く傾向があり、長い花穂は上部と先端部で開花期がずれ、果房先端部が着粒不良となる。また、果粒肥大のばらつきも大きくなるため、長く残さないように注意する。

花穂の整形方法



整形前



整形後

3cm

- ・実施時期：開花始めの1週間前から開花始め
- ・残す花穂の長さ：花穂の先端部分3cm
- ・整形する数：1新梢につき1花穂る
- ・先端部：奇形な花穂は切除するが、正常な花は切除しない

無核化のための植調成長調整剤利用

無核化のための植調剤使用方法



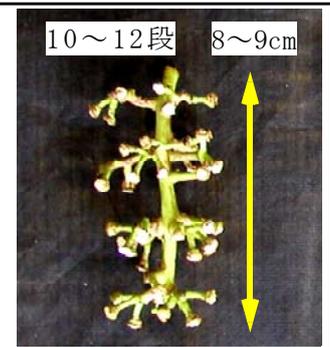
1. 「巨峰」より種が残りやすいため、開花前にストレプトマイシンを散布する。
2. 方法① ジベレリン2回処理法の場合の留意点
 - ・ 1回目ジベレリン処理は、満開3日後に行う。満開時に行うとショットベリーの着生が多く、花穂の主軸が湾曲しやすい。また満開5日後以降の処理では着粒が不安定になりやすい。
3. 方法② ジベレリン1回処理法の場合の留意点
 - ・ 満開5日後に、ジベレリンとフルメットの混合液を処理する。
 - ・ 1回処理の果粒は球形に近く、主軸があまり伸長しないが、支梗も伸長しないため、果粒が密着した、縦長の果房になる。果粒肥大は2回処理法よりやや劣る。このため、早期に摘粒作業を開始する。

摘粒

1. 果粒の肥大は「巨峰」等4倍体品種より劣る。このため、早期の摘粒で果粒肥大を促す。
2. 1回目ジベレリン処理後（2回処理、1回処理ともに）5～7日の間に、予備摘粒を行い、花穂の大きさを見直す。450～500gの果房にするための目安は、軸長4.5～5cmである。
4. 仕上げの摘粒は満開1か月後頃までに右図をめやすに行う。

摘粒のめやす

- 1房重量の目標：450～500g
- 1房粒数：35～40粒
- 穂軸の長さ：8～9cm
- 支梗数：10～12
- 摘粒する果粒：
 - 肥大が不良な果粒
 - 外側へ飛び出している果粒
 - 内側にもぐっている果粒
 - 果房中段の上、下向きの果粒



収穫時の穂軸

摘房

1. 満開1週間後頃、肥大の悪い果粒が多い果房、果粒の着生が少なかったり、部分的にムラになっている果房、穂軸が大きく曲がっている果房等を摘房する。
2. 満開2週間後頃（摘粒作業直前）に、着粒や房形の不良な果房、生育の劣る（弱い）新梢の果房を摘房し、最終の目標着房数にする。
3. 着房過多の場合、収穫時期が遅れたり、果実品質（糖度）が低下するので注意する。

新梢管理

1. 開花直前から開花期に、新梢の徒長的な生長を抑え、着粒を安定させるため、強勢な新梢については先端の未展葉部分を軽くつまむ程度の摘心を行う。
2. 開花2週間後頃から（摘粒作業と同時期）、強勢な新梢で長さが2m程度に達するものについて、先端部を摘心する。また副梢についても1～2葉を残して摘心する。

袋かけ

1. 摘粒・摘房終了後、できるだけ早期に袋かけを行う。満開1ヶ月後までの早期の袋かけにより、かすり症の発生が軽減できる。

収穫

1. 酸含量が少ないため、収穫開始時期は糖度と果皮色で判断する。
2. 糖度が18%に達した頃を収穫始めとする（長久手（農総試）における収穫開始は8月8日）。
3. 着果負担が大きい場合、糖度が低かったり、糖度の上昇が遅れたりする可能性がある。
4. 「巨峰」より脱粒しにくく、樹上での日持ちは長い。
5. 成熟するに従って、果皮色は緑→黄緑→黄色となる。黄緑になる頃から果皮のかすり症が発生するため、外観を重視する場合は果皮が黄緑になる頃に収穫を終える。果皮が黄緑色になり始める時期は長久手（農総試）で8月25日頃で、収穫終わりは9月4日である。

施肥・かん水

1. 施肥・かん水ともに、無核「巨峰」に準じて行うが、樹勢が強いため若木の間、施肥量は1～2割減らす。

病虫害防除

1. 「巨峰」と比較して、黒とう病に弱く、べと病にはやや弱く、晩腐病に対してはほぼ同等である。
2. 農薬による防除は「巨峰」と同じ防除体系でよいが、5月中旬から黒とう病の発生に注意し、万一発生が見られたら、発生初期のうちに黒とう病に治癒効果のある薬剤を追加して防除する。